学社連携・協働の動き

Ｐａｒｔ ２５

総合学習センターは、学社連携協働の推進の役割を担い、具体的な取り組みを展開しています。センターだよりでは、市内の学校・地域の様々な取り組みの紹介を通して、相模原市の学社連携・協働の動きをお伝えしています。

今回は双葉小が女子美術大学の学生と連携した取り組みを紹介します。

学生ボランティアは現在市内の多くの学校に入り、学習支援を中心に活動をしています。双葉小学校（内田良教校長）でも、地域に住む学生が定期的に学習支援ボランティアとして授業に入り、国語や算数の学習内容の定着にむけて補助的な役割を果たしています。

双葉小で特徴的なのがもうひとつのスタイルです。近隣にある女子美術大学の学生と子どもたちが共に学び合う活動を行っています。

学生とのワークショップ

卵の森プロジェクト

女子美術大学が、市内で新しい産業として注目されている「だちょう」を、美術という視点からアピールするため、そして、牧場から出る卵の殻を利用して子どもたちに地球環境について考えもらうきっかけとするために、双葉小のサマースクールにおいて、大学生と子どもたちがワークショップ形式で学習を進めました。

ワークショップの流れ（２日間）

① だちょうについて知る。
② 殻を使って鉢を作り、デザインする。
③ 食物連鎖について考える。
④ 苗木を植える。展示して見合う。

子どもたちは、鉢を作ったり苗木を育てたりすることの楽しさや喜びを感じることができるとともに、生き物や環境について関心を持つことができました。「赤ちゃんだちょうがどうやってたまごの中に入っているか知りたくなった。早く木を植えたい」（４年生）や、「世界では木が切られて森がなくなっているから、これからもこういう活動をしていきたい」（５年生）など、これからの学習につながるような感想が出されました。

歩いてさがそう！風っ子マップ

サマースクールでのもう一つのワークショップです。子どもたちと大学生がグループになり、学校周辺に出かけてマップづくりをしました。

教えるのではなく、一緒にいろいろなもの（主に自然のもの）を見つけながらマップに書き込んでいく活動です。

最後に学生が用意してくれた大きなマップに、自分たちが見つけてきたものを大胆に描き込み、すてきなマップを完成させました。

ダンボールハウスを制作しよう

子どもたちが大学に行って、学生に教えてもらいながら、段ボールを素材にして造形活動を楽しみました。

子どもたちにとって新たな人やものに出会い、いろいろなことが学べる機会であるとともに、大学生側にとっても、子どもたちに教えたり一緒に活動したりすることを通して、大学で学んだことを活かしたり、新たな気づきや課題を持ったりすることができる、お互いに学び合うことのできる豊かな学びの場となっています。今年度も引き続き取り組んで行く予定だそうです。